



不思議としるし、新天新地 出エジプト記

出エジプト記

2014.3.7

1:-18: 「不思議としるし・ハレルヤ」

主はモーセを遣わして、奴隷の家から民を連れ出した。

19:-40: 「新天新地・アーメン」

主は律法を与えて、荒野で民とともに住んだ。

ヨハネ 光がやみに打ち勝つ。神の子らを生む。
(ヨハネ1:5,9-13)ことばが民の間に幕屋し。栄光が満ちた。
(モーセの律法/恵みとまこと) (ヨハネ1:14)

Rev. わざわい (Rev. 8:9:16) ハレルヤ。主とあはれ (Rev. 19:)

新天新地。神の幕屋が人とともに (Rev. 21:)

Ex. Ex. 15: モーセの歌 「主に歌え...主は王とあはれ」

Ex. 40. 主の栄光が幕屋に満ちた。

使徒 不思議としるしと尋ねた。(使徒7:38)

あはれの幕屋 (使徒7:44)

詩篇 主のことばによるしるしと不思議 (詩105)

主の不思議を忘れ、ことばを信じまい (詩106)

出エジプト記の分析は、大きく分けて2つ。大きな流れは、他の書物と比べてこの2つのことを広い観点で見てください。前半と後半。エジプトから連れ出されるという話と、連れ出された民にみことばが与えられ、住む場所、幕屋が与えられ神様と共に住むという大きな2つです。前半が「不思議としるし、ハレルヤ」。後半に「新天新地、アーメン」というふうに書いてありますけれど、それはどこから、その言い方はどこから来たのかというのを確かめるということです。

出エジプト記

2014.3.7

1:-18: 「不思議としるし・ハレルヤ」

主はモーセを遣わして、奴隷の家から民を連れ出した。

19:-40: 「新天新地・アーメン」

主は律法を与えて、荒野で民とともに住んだ。

ヨハネ 光がやみに打ち勝つ。神の子らを生む。
(ヨハネ1:5,9-13)ことばが民の間に幕屋し。栄光が満ちた。
(モーセの律法/恵みとまこと) (ヨハネ1:14)

今回分析したヨハネ福音書1章の光であった、ことばであったイエス様が来られたと聞いた時に、「光がやみに打ち勝ち、神の子らを生む」というのが、1章の最初の方にあります。5節、9-13節の中にあります。そして、「ことばが民の間に幕屋した、そして栄光が満ちた」というのが、14節にあります。「恵みとまことが満ちておられた」という言い方が出てきます。モーセの律法もあります。16節から、「私たちはみな、この方の満ち満ちた豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを受けたのである。というのは、律法はモーセによって与えられ、恵みとまことはイエス・キリストによって実現したからである。」そのことばが人となって私たちの間に幕屋してくださって、その栄光を見

ました。恵みとまことの栄光であるということで、この後半が恵みとまことですから、アーメンという言い方でこちら（後半）を表現しています。

Rev.	わざわい (Rev. 8: 9:、16:) ハレルヤ、主と交わら (Rev. 19:)	新天新地、神の幕屋が人とともに (Rev. 21:)
Ex.	Ex. 15: モーセの歌「主に歌え...主は王とみこ」	Ex. 40: 主の栄光が幕屋に満ちた。
使徒	不思議としるしで導いた。(使7:38)	あかしの幕屋 (使7:44)
詩篇	主のことばによるしるしと不思議 (詩105)	主の不思議を忘ぬ、ことばを信じよ (詩106)

黙示録にいくと出エジプト記の災い、かえる、いなご、ひょうや火などのその災いが出てきます。そして19章では、「敵を裁いてハレルヤ、主は王となられた」という歌が記録されています。そして、最後の最後に「新しい天と新しい地を見ました、神の幕屋が人とともにある」というのが21章です。

出エジプト記の15章にモーセの歌がありますけれど、「主に歌え、主にほめ歌を歌え」というのが出だしです。そして、最後に「主は王である」というところで終わっています。モーセの歌は、「ハレルヤ」という歌の最初のもので、黙示録の中でモーセの歌と子羊の歌という言い方も出てきます。出エジプト記の最後、40章のところで、「主の栄光が幕屋に満ちました」というのが、出エジプト記の結論、新しい天と新しい地に神様が住んでくださったということです。

使徒行伝のステパノの証言の中に、こんな言い方が出てきます。エジプトから連れ出して海を渡らせて荒野で導きました、「不思議としるしで導いた」という言い方。そして、「あかしの幕屋に住んでくださる。」神様のあかしの箱がある場所、あかしの板がある場所、みことばの住まいである幕屋に住むというのが、7章44節に出てきます。

詩篇105篇、106篇は並行している2つのペアの詩篇ですけど、片方はエジプトから連れ出された方、片方は荒野に入ったところの方です。「主のことばによるしるしと不思議で連れ出された」という105篇と、「主の不思議、その連れ出されたことを忘れて神様のことを信じないイスラエルという106篇というようになっています。

出エジプト記		2014.3.7
1:-18: 「不思議としるし・ハレルヤ」	19:-40: 「新天新地・P-X」	
主はモーセを遣ひて、奴隷の家から民を連れ出した。	主は律法を与えて、荒野で民とともに住んだ。	

ということで、前半は、主はモーセを遣わして奴隷の家から民を連れ出す。後半は、主は律法を与えて荒野で民と共に住みましたということです。この出エジプト、エジプトから救われるということは、新しい創造、復活の栄光。これが、出エジプト記のテーマで、イエス様の十字架と復活。そして、さらにAD70年の裁き、最後の裁きというところまで至っている救いのストーリーの大きな出だしのところ。これが出エジプト記だということがわかると思います。